

第4回詰四会(臨時)作品展

(課題:4回) 平成20年 3月16日(日)

解答締切:平成20年 4月13日(日)

解答発表:平成20年 4月14日(火) 予定

本作品展は公式発表とし、平成20年度看寿賞対象を希望しています。(笑)

解答には短評を必ずお書き下さい。なお結果稿には全ての短評を掲載しますのでその点ご了承ください。解答はメールにてお願いします。 takuji@dokidoki.ne.jp

第1番 山下繁実 解答者10名 全員正解

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				料			王		一
							爵		二
							龍		三
									四
								香	五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛香

【作意】

1一飛 同玉 1四香 イ1三桂 同香生 同銀 同龍 2一玉
2二銀 3二玉 4四桂 4一玉 3一銀成 同玉 3三龍 2一玉
3二桂成 1一玉 2二成桂 迄 19手

イ13角合は、同香生、同銀、33角、22合、13龍、21玉、22角成 迄

フェアリー界の超大物が普通作の作品を披露していただけるということで担当とする
とこんなにおいしい話はないのだ。これからもよろしくお願いします。

作品の手順についての説明は・・・特にすることはないのです。とにかく作品のフィー
リングを感じていただければ・・・と思います。

合駒制限の配置 15歩と作意成立の為の 51桂配置が実に上手い配置で、これにより詰上
り斜め対称形が浮かび上がります。さすが徹底した推敲をする作者ですね。なお最終手に

22 成桂として対称形を解答したのははわずか 3 名（凡骨生、香箱、加登屋）でした。

利波偉「あれ？今回の課題は清涼な作品でしたっけ？何が四回なのか謎だ、、、。作意は簡単ながら、清涼図式に纏められていて、好感がもてます。」

小峰耕希「え～っと、何が 4 回なんでしょう（笑） すみませんがわかりませんでした。内容に目新しさも無いので、臨時に回したのは正解と思います。」

DISABLED「何が 4 回なのか分かりませんが・・・簡素で良い作品なのですが・・・。」

荒川貴道「3 手目の合駒が悩ましかった。『角ならば』と悩んでしまったが、わかってしまえば何でもなかった。」

凡骨生「駒数少なく詰め心が出る作で合駒を読まされる。4 回の意味は？」

中村雅哉「何が 4 回なのかわからない。2 筋の手が 4 回か？」

隅の老人 B「桂合で小考、歩合は無しか。後は流れで、一気です。」

香箱「何が 4 回かは分からないので完全に解けたとはいえませんが。」

加登屋「C『手順中、桂馬が 4 回』かな？・・・上手く捌ける」

隅の老人 A「簡素な形で 15 歩や 51 桂の配置にも気を使っていますね。

欲を言えば 22 銀は合駒で発生させたいがチョッと無理でした。

手順では、重く打った 22 銀が 31 銀成と消える所がお気に入りです。

合駒も入り初心者向けには良い出題でした。」

第 2 番 山下繁実

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							角	王	一
									二
							角		三
									四
							桂		五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂歩2

利波偉「これも何が四回なのか謎の作品。作意は易しい打歩打開で、啓蒙作品として使えそうです。」

小峰耕希「こちらもよくわからず。単純に 玉 4 回か？」

DISABLED「こちらも気付けずにすみません。打歩打開？」

荒川貴道「やりたい手を続けていたら詰んでいたという感じ。」

凡骨生「桂を打てば一直線で詰む。盤面 4 枚が 4 回ですか？」

中村雅哉「これまた何が 4 回なのか不明。同玉とされない王手が 4 回??」

隅の老人 B「初手が良い味を出している。易しい好作でしょうね。」

香箱「何が4回かは分からないので完全に解けたとはいえませんが。」

加登屋「何が4回なのか解らない為、敢えて無評価とします。・・・玉に攻め駒が接しない、美しい詰上りが良い」

隅の老人 A「21角は銀でも良いのですが作者は見た目の軽さから角にしました？」

昔、貧乏凶式の名前で持て囃され事もある。初手で継ぎ桂を打つのが唯一の紛れですが、易し過ぎたかな？易しいことも良いですよ。」

第3番 橘 圭吾

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			と	継	昇	飛	逆		一
						王	飛		二
			角						三
			ス			桂	と		四
				香		桂			五
				飛	王	桂			六
						桂			七
						香			八
									九

持駒 なし

利波偉「初手 42 桂成同香 43 桂成同香 44 桂同香 45 桂として詰ましていましたが、43 桂成に同玉で詰まないとは、危うく誤答するところでした。作意は裏をかいた手順なのでしょうが、紛れ順であっさり仕上げる方が私は好きです。でも作者としては、それでは捻りが無いというところなのでしょうね。」

小峰耕希「これは多分わかった。桂のウェーブが課題なのかな。ただ菅野哲郎さん辺りかもっと執念深いのを作ってそうな気もしますが。」

DISABLED「桂で4連続王手。初手の駒取りは分かりにくい。逆王手合まで盛り込むとは。飛で逆王手4回もアリか。」

荒川貴道「逆王手が多くてスリル満点です。」

凡骨生「4連続桂跳ねと飛の4連続逆王手とは心憎いネ。」

中村雅哉「解くのは簡単だが作るのは難しそう、課題にぴったりマッチしたユーモア作品。」

初手の成生非限定は少し味が悪い気がする。」

隅の老人 B「ズラリと縦に桂が並んで、下段に香が控えてる。桂さえ居なけりゃ、何とかなるよ。片づけ途中に、桂合の逆襲。吃驚仰天、ああ驚いた。」

香箱「逆王手の連続11回も大した記録では？」

加登屋「C『連続逆王手4回(初形を逆王手にカウントしたくなる気はする)(だから)』連続4回同飛(と挙げておきますが)』連続4回桂移動王手(は凄いいと思います)・・・課

題の為に無理をすると、手順が平易になり易く自然と駒配置も乱雑となり、評価を下げざるを得なくなるので最近は無理をする位なら手順重視で組立てる努力を惜しみません。・・・つまり努力は買うが、それは作品評価とは別物なので。』

隅の老人 A「ウワッ、王手になっている。受けるには之しかないけれど、最後の王手が狙いで4桂を連続して捨てて行く、詰四会の課題にピッタリで面白い短編趣向作です。終わりの方で44桂合の逆襲もピリッとしてハッとさせます。」

総評

利波偉「山下氏の作品が解けるのは、「詰四会（臨時）作品展と詰将棋カレンダーだけ！」
とって客引きをしましょう。」